

偏見や差別に気づき、自他の人権を尊重する行動につなげるために

大阪府教育庁 人権教育企画課

各学校において、教育活動の再開にあたり、新型コロナウイルス感染症の感染防止のために最大限の配慮を行っていただいていることにより、少しずつ日常を取り戻しつつあります。

教職員のみなさんは、日常に戻りつつある学校生活の中で、子どもたちが生活や勉強への不安からがんばりすぎていないか、また、がんばりすぎた疲れから体調が不安定になる子どもが出てくるのではないかという心配があるのではないのでしょうか。

現在も、新型コロナウイルス感染症をめぐる、特定の国や地域の人々に対する偏見や差別、また医療従事者や福祉、保育など特定の職業についている人に対する偏見や差別、感染者とその家族に対する偏見や差別につながるような言動やいじめが、インターネットなど様々な場所で起こっています。

そんな状況の中、学校や学級で同じように苦しい思いをしている子ども、自分も嫌がらせを受けるのではないかと不安な毎日を過ごしている子どもへ思いをはせながら、日々丁寧に子どもたちを把握していただいていることと思います。

この時期だからこそ、今一度、子どもたちと一緒に、偏見や差別について、自分事としてとらえ、仲間と思いを交流し、行動につなげる機会を設けていただきたいと考え、指導資料を作成しましたのでご活用いただければ幸いです。

人権が大切にされた環境の中で教育活動が行われるために、日々の言葉かけや対応などに教職員の人権感覚が問われていることを忘れず、以下の点についてもご留意いただき、人権教育の取組みを進めていただきますようお願いいたします。

○正しい情報をつかみ、冷静に判断する

インターネット上にある新型コロナウイルス感染症の情報の中には、事実とは異なるものや噂話もあります。子どもたちがそれらを信じて拡散し、過剰に反応することで、偏見や差別につながる行為になることも考えられます。あふれる情報に振り回されず、正しい情報に基づいて判断することが必要です。

新型コロナウイルスには誰でも感染する可能性があります。感染した当人には罪はないという事は言うまでもありません。教職員が今一度、人権意識を見つめなおし、互いに人権感覚を高め合うことが必要です。

○こころとこころのつながりを大切にする集団をつくる

人と人の距離は一定離さなければなりません、お互いを尊重し、心のつながりを大切にした集団づくりが必要です。不安な気持ちがある子どもがいたら、優しい言葉をかけあえる、支え合えることで安心できる環境をつくる必要があります。

この資料は、子どもたちに配付のうえ、〈指導資料〉のように、一緒に考えながら取り組むことも、〈説明資料〉のように、指導者の説明を主体として取り組むこともできます。実情に合わせてご活用ください。

〈指導資料〉

しんがたコロナについて しぶんの気持ちに 気づく

ねらい	
なぜ偏見や差別につながる問題が起きるのかについて気づくとともに、自分や周りの人の人権を尊重する行動につなげることができるようになる。	
対象	
小学部の児童	
■展開例	
指導の流れ	指導上の留意点
<p>①資料を見ながら説明を聞く。</p> <p>○児童用プリントを見ながら、①病気、②不安について説明する。</p>	<p>特に「不安」については、授業者の感じていることなどを織り交ぜて説明するとよい。</p>
<p>②●こんな気持ちになったことはないですか？ ●を見ながら、学校生活が始まって、こんな風を感じたことはないか振り返る。(意見交流をする場合、他に感じていたことを出し合ってもよい。)</p> <p>○「くしゃみや咳が出たらどうしよう、と不安になる」 「教室で咳が出そうになるけど、我慢してしまう」 「家族が体調不良になったら、誰にも相談できない」 など</p>	<p>意見を出し合う場合、授業者の経験を出すと安心して意見を出しやすくなる。また、同じような経験を多くの人がしていることが分かればさらに良い。</p>
<p>③「言いにくい」と感じるのはなぜなのか考える。(意見を出し合ってもよい。)</p> <p>○「どうして言いにくいのか」について考えを整理する時間を取る。</p> <p>○意見を出し合う場合、発表する時間を取る。</p> <p>「コロナと言われるかもしれない」「休んだら何を言われるかわからない」 「仲良くしていた友だちから嫌われるかもしれない」 「言ったときに周りからどんな風に言われるかわからない」 「周りから心配されたくない」「体調が悪いなら休んだらいい」 「言う必要ない」「たぶん普通の風邪だと思うから」</p> <p>○様々な情報により、不安な気持ちが大きくなり、安心感を得るため特定の人を責めたり排除するような言動をしてしまうこと、実際に不安から偏見や差別につながった例が多くあることについて説明する。</p>	<p>言い出しにくくさせるのは、世界中で起こっている偏見や差別に関する報道が広がっているからであることに気づかせたい。</p> <p>医療従事者や、長距離トラックの運転手、感染者やその家族への差別の例を示してもよい。</p>
<p>④「みなさんにできること」を読んで説明を聞く。(最後に感想を書いてもよい。)</p> <p>○感染した人はなにも悪くないし、自分の命を守ることが何より大切で、安心して相談してほしいこと、不確かな情報をむやみに信じて拡散することで偏見や差別を広げることがあるので、正しい情報かどうか確かめること、自分の言動で相手がどんな気持ちになるのか考えること、医療従事者やスーパーのレジや福祉、保育の仕事、長距離トラックの運転手など、社会を支える人々への敬意と感謝を忘れないことを説明する。</p> <p>○参考資料を紹介し、動画についても勧める。</p>	<p>偏見や差別にさらされるかもしれない不安から言い出せない状況は間違いであること、安心して相談してほしいことを伝える。</p> <p>感想を書いた場合は後日学級通信などで共有する。</p>

<説明資料>

しんがたコロナについて じぶんの気持ちに 気づく

【ねらい】なぜ偏見や差別につながる問題が起きるのかについて気づくとともに、自分や周りの人の人権を尊重する行動につなげることができるようになる。

○しんがたコロナウイルスがはやっています。このウイルスは、まだわからないことがたくさんあります。みなさんは、毎日どんな気持ちですごしていますか？いっしょにかんがえてみましょう。

○①病気

このウイルスは、かかっている人からうつることがわかっています。うつると、体の中でどんどんふえて、ねつがでたり、せきがでたりします。

②不安

このウイルスは見えません。ワクチンや薬もまだ開発されていません。わからないことが多いので、不安な気持ちになったり、こわくなったりすることがあります。

○みなさんは、もし熱があったり、体調が悪かったりしても、なんとなく言いにくいなあと感じることはないですか？（振り返る時間をしばらくとる）

○「言いにくい」と感じるのはなぜでしょうか？（考える時間をしばらくとる）

○色々な情報により、不安な気持ちが大きくなり、自分の身を守ったり、安心感を得るために、ある人を責めたりのけものにするようなことを言ったり書いたりしてしまうことがあります。ニュースなどでも流れているように、不安から、病院で働いている人や長距離トラックの運転手、感染者の家族などに、出ていけと言ったり、コロナがうつるから近寄るなど言うようなことが起こっています。このようなことは許されないことです。

みなさんが「言いにくい」と感じている理由には、自分も何か言われるんじゃないか、という不安があると考えられます。そのような不安を多くの人が持っているために、体調が悪くてもなかなか言い出せなくなることから、感染が広がってしまうことも考えられます。

○では、みなさんにできることは何でしょうか。

感染した人は悪くありません。この病気には誰でも感染する可能性があります。体調がよくないときは、周りの人からどう思われるか気にせず、安心して相談してください。皆さんの命を守ることが何より大切です。

新型コロナウイルス感染症に関する情報の中には、本当ではない情報や噂話もあります。その情報は正しいものなのか、きちんと確かめましょう。

じぶんが言ったり書いたりしたことで、相手がどんな気持ちになるか考えましょう。

病院で働く人、スーパーのレジや福祉、保育の仕事、長距離トラックの運転手など、社会を支える人々がいるから私たちは安心して生活できます。病院で働く人や、社会を支える仕事をしている人に感謝の気持ちを持ちましょう。

○今日は、日本赤十字社の「新型コロナウイルスの3つの顔を知ろう！～負のスパイラルを断ち切るために～」をもとにお話ししました。プリントには動画も紹介していますので、そちらも見てみてください。